ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

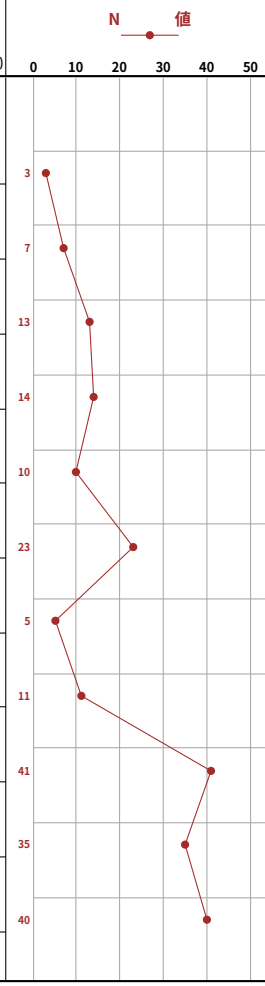
シートNO.

ボーリング名	BP.3	調査位置						北　緯	36 ° 27 ' 57.3400 "
発注機関	栃木県　安足土木事務所			調査期間	2010-07-24 ～ 2010-07-27			東　経	139 ° 30 ' 35.2000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	229.03 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 28.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	11.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					表土 (SF)	黒		硬い	有機質火山灰土による。GL-0.5mまでは植物根を多く含む。GL-0.8m以深、軽石粒を認める。 土性は粘性・含水共に中位で軟らかい。		
	226.68	2.35	2.35		礫混り粘土 (CH-G)	暗茶褐			GL-2.7mまではローム質を帯びる。 以深は粘土化進行を伴う。		
						暗褐灰			礫はφ3～5mmの角礫(岩片)を主体に最大φ10mm程を混入すると共に、風化した岩塊を固結砂状で含む。		
						暗茶灰			局所的に砂分の含有が見られ、特にGL-6～7m間は礫分が多く、粘土質砂礫状を呈す。		
								非常に硬い	地下水面付近で軟質化を伴う。		
								中位			
						茶褐		硬い	GL-7.7m以深にφ10mm内外の風化礫(岩片)の混入がやや多く、GL-8.5m付近にはコア長20cm程(推定φ400～600mm)の岩塊を認める。		07/27 8.05
	220.18	6.50	8.85		風化岩 (砂岩) (WR)	暗褐灰			風化・変質が著しく、岩芯まで組織破壊が及び、コアは固結した砂質粘土状で採取される。 GL-9.6～9.8m間、粘土化が顕著で固結度合いの低下を伴う。 局所ではφ10mm前後の岩細片を認める。		
	217.58	2.60	11.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3／30	3
1.45					
2.15		1／20	6	7／30	7
2.45					
3.15	5	4	4	13／30	13
3.45					
4.15	5	5	4	14／30	14
4.45					
5.15	4	3	3	10／30	10
5.45					
6.15	6	8	9	23／30	23
6.45					
7.15	2	1	2	5／30	5
7.45					
8.15	2	3	6	11／30	11
8.45					
9.15	12	16	13	41／30	41
9.45					
10.15	11	12	12	35／30	35
10.45					
11.15	12	13	15	40／30	40
11.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/24
						07/26
						07/27